

1. 業務概要

1-1 業務目的

本業務は、藤沢市が指定する天然記念物について、診断により状態を把握し、天然記念物の維持管理の一助となることを目的に実施するものである。

1-2 業務内容

委託名称：令和7年度 藤沢市指定天然記念物樹木診断業務委託

履行場所：江の島 サムエルコッキング苑内

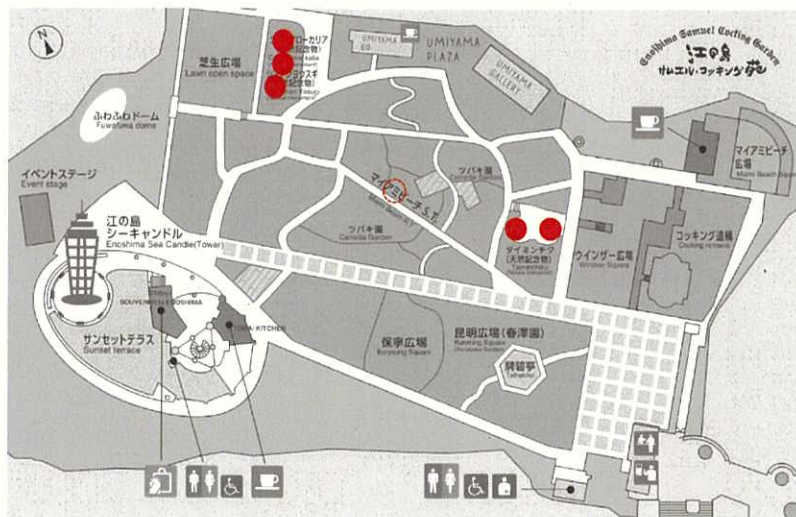


図1 履行場所

履行期間：令和7年10月～令和8年3月31日まで

発注者：藤沢市生涯学習部郷土歴史課

受注者：一般社団法人かながわ樹木医会

1-3 業務項目

樹木外観診断および診断票の作成	4本
土壌調査、経過観察および調査票の作成	1本
報告書作成	一式

1-4 診断木の概要

診断対象樹木は、江の島サムエルコッキング苑内にある。藤沢市指定天然記念物のクックアロウカリヤ1本、シマナンヨウスギ（シマナンヨウスギ1本、シマナンヨウスギ変種1本）、タイミンチク群1群である。

総合評価票

調査日	2025 年11月26日	調査者	江尻(野田)晴美、宮治 悠介									
樹木名	クッカアロウカリア	樹種名	クッカアロウカリア									
所在地	神奈川県藤沢市江の島2-3-28											
形状寸法	樹高：18.7 m、幹周：294 cm、根元周：449 cm、枝張り：E 5.8 m・W 5.5 m・S 5.2 m・N 4.6 m											
調査・診断結果	活力度	活力度	樹勢	樹形	枝の伸長量	新梢の伸長	新梢・枝条の枯損	枝葉の密度	葉の大きさ	葉色	剪定後の巻込み	樹皮の状態
		3	2	2	2	3	2	2	0	0	2	2
	[所見]隣木の被圧により片枝になり、樹形が崩れ始めている。											
	樹体の被害と衰退原	枝	被圧により、下枝が少ない。 枝折れが散見された。									
		幹	根元から幹にかけて、樹皮欠損が確認できた。 樹皮の亀裂や樹脂の漏出が確認できた。									
		根	根元に実生木本が生育していた。根元に樹皮欠損が確認できた。 樹幹傾斜が顕著である。									
	植栽基盤の状況	人の出入りは限定的。裸地である。										
	樹木保護材の状況	保護材はない。										
	周辺環境の状況	当初、樹高が大きくなかった樹木3本が天然記念物指定されているが、大きく成長したことにより、密な状況になり、互いに被圧になっている。北側の樹林が被圧になっている。										
	景観の状況	当初、樹高が大きくなかった樹木3本が天然記念物指定されているが、大きく成長したことにより、密な状況になり、一本一本を認識しにくい状況である。										
その他特記事項	—											
総合評価	<p>北側の枝が多く剪定され、スタブカットとなっている。南側は隣木シマナンヨウスギの勢いがよく、当該樹の被圧になってしまい、樹形が崩壊し始めている。</p> <p>北側の樹林が被圧になり、下枝が減少している可能性があるため、北側の樹林の整理（剪定や伐採）をし、風通しや日陰を減らす等検討が必要。</p> <p>根元から幹にかけて樹皮欠損が確認され、樹幹傾斜や樹皮割れも確認された。トップカットをして樹高管理を行うと、樹勢が急激に落ちる可能性があるため、いずれは北側にほうずえ支柱もしくは北側の園路の通行を禁止し安全の確保を行ったうえで、当該樹の保全を行うことが望ましい。</p> <p>また樹勢があまりないこともあり、完全に衰弱する前に後継樹の育成の検討が必要であるとする。</p>											
保全対策の方針案	保全目標	短期的（緊急）保全策			中期的保全策			長期的保全策				
	日常管理	イベント使用資材は別の場所に置くこと			枯れ枝の剪定 折れ枝の切り戻し			—				
	生育・景観改善	根元の実生の撤去 ツタ類の除去			北側の樹林の整理			—				
	治療・回復	枯れ枝の剪定 スタブカットの切り戻し			樹幹傾斜があるため、ほうずえ支柱、園路通行止の検討。			—				
	その他	—			—			後継樹の育成				

生育環境調査票

調査日	2025年11月26日	天候	晴れ				調査者	江尻(野田)晴美、宮治 悠介					
樹木名	シマナンヨウスギ					樹種名	シマナンヨウスギ						
学名	<i>Araucaria heterophylla</i> (Salisb.) Franco					科名	ナンヨウスギ科						
所在地	神奈川県藤沢市江の島2-3-28												
樹 齢	約 150 年	[根拠] 1972年時点 推定樹齢：約100年（「藤沢市文化財調査報告書第52集」より）											
形状寸法等	樹 高	20 m		幹周	213 cm		根元周	301 cm		枝下高	2.7 m		
	幹周(株立)	本数	1	本立	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	
	枝張り	E 6.7 m		W 6.4 m		S 5.0 m		N 4.3 m					
気象条件		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	月別平均気温(平均値)	8.0	8.5	10.2	16.7	19.5	22.7	27.7	28.9	26.9	21.1	14.5	8.8
	月別降水量(平均値)	33.5	95.5	187.0	126.5	177.0	303.0	106.5	318.5	69.5	189.0	147.0	0.0
	年平均気温	17.8 °C		最高気温極値			(2024年) 37.0 °C		最低気温極値			(2024年) -2.3 °C	
	年降水量	1753.0 mm		温量(暖かさ)指数			153.5 °C・月		寒冷(寒さ)指数			0 °C・月	
	風あたり(特記)												
	潮風の影響	1. なし 2. ややあり 3. あり <u>4. やや強</u> 5. 強											
日照条件	1. 良 <u>2. 普通</u> 3. やや不良 4. 不良 [日照不足の原因] 隣木との間が詰まっている												
立地環境	地形	1. 山地 <u>2. 丘陵地</u> 3. 台地 4. 低湿地 5. 尾根 6. 中腹 7. 谷 8. 窪地 9. 扇状地 10. 自然堤防 11. 埋立地 12. 海岸 13. その他 ()											
	土地の傾斜	<u>1. 平坦</u> (0°~5°) 2. 緩傾斜 (5°~15°) 3. 中傾斜 (15°~30°) 4. 急傾斜 (30°~45°) 5. 険しい (45°以上) [傾斜方向] →											
	土壌の状態	1. 自然土 [a. 堆積土 b. 崩積土 c. 削剥土 d. その他 ()] 2. 盛土・客土 3. 切土 4. その他 () <u>5. 不明</u>											
	地表の状態	<u>1. 裸地</u> <u>2. 草地・地被類</u> 3. 灌木・低木 4. 舗装 [a. 砂利・碎石 b. アスファルト・コンクリート c. その他 ()] 5. 覆土 [厚さ () ・ 土性 ()] 6. その他 ()											
	周囲の状況	根元及び周囲の植生	草本	1. 密生		<u>2. 疎</u>		3. なし					
		低木	1. 密生		<u>2. 疎</u>		3. なし						
周辺樹木との関係		1. 影響なし <u>2. わずかに影響を受けている</u> 3. 影響を受けている 4. かなり影響を受けている 5. 深刻な影響を受けている [影響の状況] 隣木の樹木が大きく生育したことにより、被圧になり始めている。											
希少動植物等	1. 動物生息 (有・ <u>無</u>)	[動物の種類 ()]											
	2. 着生植物 (有・ <u>無</u>)	[着生植物の種類 ()]											
その他													

総合評価票

調査日	2025 年11月26日				調査者	江尻(野田)晴美、宮治 悠介							
樹木名	タイミンチク群				樹種名	タイミンチク							
所在地	神奈川県藤沢市江の島2-3-28												
形状寸法	樹高：7~8 m、幹周：0.5~2.0 m、根元周：0.5~2.0m、枝張り：西側2.7×2.7m、東側5.0×5.0m												
調査・診断結果	活力度		活力度	樹勢	樹形	枝の伸長量	新梢の伸長	新梢・枝条の枯損	枝葉の密度	葉の大きさ	葉色	剪定後の巻込み	樹皮の状態
			2	2	1	0	0	3	0	0	2	-	0
	[所見] 一部枯死している稈以外は、大きな問題はない。												
	衰退原因	樹体の被害と	枝	葉先が茶色化した葉、不規則な黄化の葉からも分生子が確認できたが、現在日本のササ類の病害に該当はしなかった。海外における論文にて、竹類から分離された、当該菌に似たような形態の分生子 (<i>Apiospora</i> 類) が確認できた。当該分生子は <i>Apiospora</i> 類の可能性もある。内生菌であった場合は、開花後に枯れてきた葉に出てきた可能性がある。もしくは、タケ・ササ類の葉を枯らす病害の可能性もある。									
			幹	枯れ稈が多く確認でき、支柱内に稈が密集している状況であった。									
			根	地下茎が多く根元周りに露出もし、繁茂していた。									
	植栽基盤の状況		地下茎や根が地中50cmまでの深さに多く確認できた。土壌は30~35cm付近で層が分かれていた。土壌物理性および化学性、土壌断面は良いし可であった。										
	樹木保護材の状況		一部支柱が割れていた。										
	周辺環境の状況		根元周辺には、縁石が敷設され、その外側はカラーコンクリートが敷設され、地下茎で広範囲に繁茂しないようにされていた。										
	景観の状況		周辺には、植木鉢が多く配置され、当該樹と景観的統一がなされていない状況であった。										
特記事項		2025年5~6月に開花した。											
総合評価	<p>2025年5~6月に開花したことおよび各調査結果より、当該個体の一部稈の枯損要因は、開花によるところが大きいと考える。タケ・ササ類は常に地下茎で無性的な繁殖をつづけるが、一般に、一生に一度だけ開花・結実し、その後枯死するという一回繁殖型の生活史を持つとされている。タイミンチクについては、約100年に一回といわれているが、実際には開花や再生などの特性は種間および種内で様々である。当該個体は、株全体が枯死していない状況であったが、経過観察の結果、葉先の茶化が進んでいた。葉の病害の可能性も視野に入れ、今後枯死するのか、一部残存するのか、経過の観察が望ましい。枯死の可能性を念頭に置き、開花した際の種子を使用した種子繁殖、葉先が茶色くなっていない稈がある地下茎を切り取って行う株分けなど、後継樹の育成を推奨する。</p> <p>稈が倒れないように支柱が設置されているが、その中の稈が密になりすぎて、枯れた稈もそのままとなってしまう。枯れ稈を除去し、支柱内の稈の密度を下げる必要がある。必要な保全策は、都度変化する。</p>												
	保全対策の方針案	保全目標	短期的（緊急）保全策				中期的保全策				長期的保全策		
日常管理		—				支柱内の枯れ稈・落葉の除去				支柱内の稈の密度調整			
生育・景観改善		電飾の撤去				地下茎で伸びた稈を整理				—			
治療・回復		支柱内の枯れ稈・落葉の除去				—				周辺舗装の一部を除去し、生育範囲を広げる			
その他		破損支柱のやり替え				—				後継樹の育成			